

今後の調査設計（案）について

資料 4

サンプル
収集



鉛汚染
影響評価



規制の
検討・実施



モニタ
リング

全国的なサンプル収集

- ・ 猟友会や県を通じた死亡個体の検体収集及び鉛汚染状況の分析

ワーストケースを想定したモデル地域でのサンプル収集

- 1) 湖沼に生息する水鳥及び水鳥を捕食する猛禽類を対象とした系
 - ① 生体捕獲等による血液または肝臓採取
 - ② カモ類・ノスリ捕獲調査
 - ③ 湖沼環境中の鉛弾または鉛濃度調査
- 2) シカ残滓を摂食する猛禽類を対象とした系
 - ① 生体捕獲による血液採取
 - ② 中型哺乳類等によるシカ残滓利用状況調査

湖沼の鉛汚染を想定した系の調査設計（案）

1) 調査対象

カルガモを中心としたカモ類
猛禽類（ノスリを想定）

2) 目標羽数

カモ類

1地域あたり年20～50羽程度

猛禽類

1地域あたり年5～10羽程度

3) 実施時期

越冬期（10月～翌年2月）

4) 調査実施体制

ガンカモ類研究者、網猟師、鳥類標識調査員等と連携

5) 調査手法

網や罟を用いた生け捕りを基本とするが、カモ類については必ずしも生け捕りに限らない。銃も用いた調査捕獲（時期別（猟期及び非猟期））も検討する。生け捕り個体は採血等の処置後、速やかに放鳥。

6) 調査候補地

下記を総合して選定

- 鉛汚染の懸念の程度
- 生息状況デ既往データの有無
- 捕獲成否の期待値

カモ類、ノスリの捕獲調査について（案）

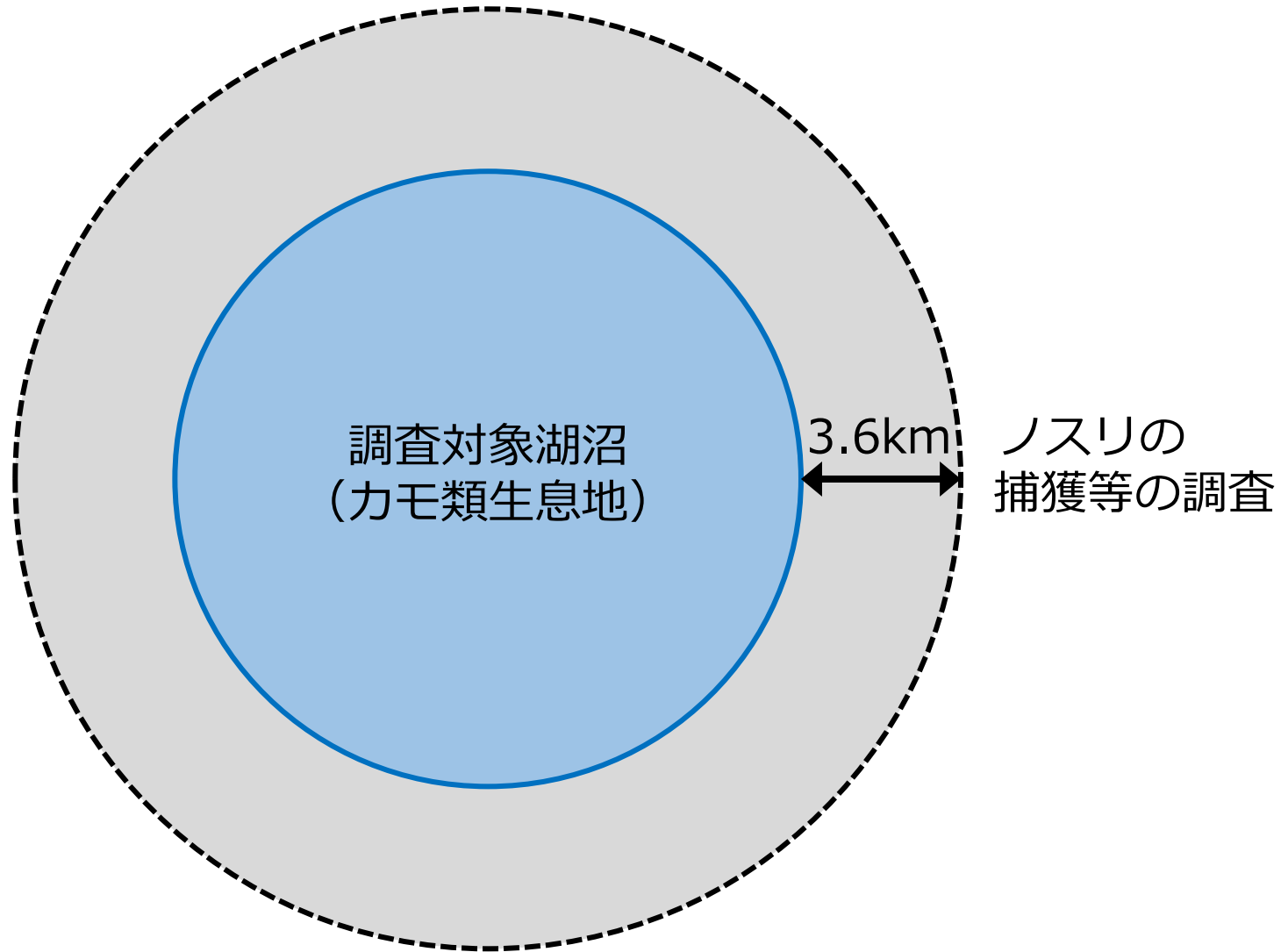
○カモ類

- 個体数等の生息状況の情報については、環境省生物多様性センターのガンカモ類の調査データを活用。
- 調査時期は、繁殖後から越冬期までの期間とする。（概ね8月から2月を想定）
- 網による生け捕りを基本とするが、猟銃による調査捕獲も検討する。

○ノスリ

- 調査時期はカモ類が飛来する越冬期に実施。（概ね10月から2月を想定）
- 体内に鉛弾があるまたは血中鉛濃度の高いカモ類の死体や衰弱個体を水辺付近において捕食するものと想定。
- ノスリの越冬期行動圏を 9.9km^2 と仮定（中原ら（2017）の最大値）、円形とした場合の直径約3.6km程度の範囲を、対象地域におけるノスリに対する鉛汚染のリスクが想定される範囲とし、その範囲を目安に捕獲調査を実施。
- 調査範囲を移動しながら、個体がいる場合にトラップ（移動式）を設置し、ノスリを捕獲、血液を採取する想定。

ノスリ捕獲調査地域の考え方（案）



猛禽類（ノスリ）の調査範囲のイメージ図

シカ残滓から鉛汚染を想定した系の調査計画（案）

1) 調査対象及び羽数

クマタカ

- 5地域程度を想定
- 1地域あたり年1～3羽程度を想定

2) 調査候補地

- 東北地方（継続）
- 中部地方（継続）
- 近畿地方（継続）
- 中国地方（新規）
- 九州地方（継続）



3) 調査実施体制

- 地域の鳥類専門家、研究者等と連携
- 猛禽類の保定・処置の経験がある捕獲者と鳥類からの採血経験のある獣医師が従事。

4) 捕獲時期

繁殖活動に可能な限り影響を与えない時期に実施（巣立ち後、次の繁殖活動が活発になるまでの期間：8月～2月を想定）

5) 調査方法

地域毎に、複数個所における誘引餌の設置、飛来状況を確認後、捕獲地を選定し、トラップを使用した捕獲調査を実施。